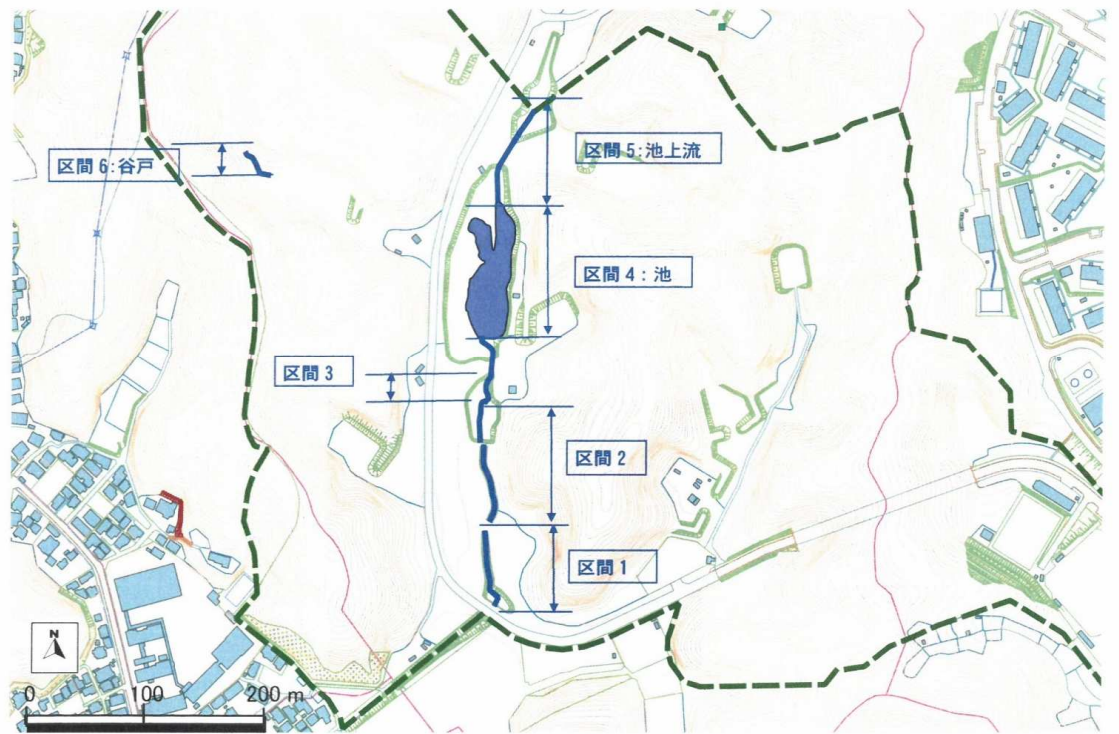


3 池や久木川周辺の昆虫と水生生物

場所・範囲



■作業スケジュール

作業	頻度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ヨシ刈り・浚渫	年1回					■	■	■	■				
外来種駆除	①池(年1回) ②植物(年1回)					■	■						
水生昆虫調査	期間中1日のみ								■	■	■	■	■

保全管理

自然環境の特徴

池はヨシで囲われており、年々ヨシが範囲を広げている。
池とその周辺にはコサナエ、オオミズスマシ、サラサヤンマ、コオイムシをはじめとするトンボ類、重要とされる昆虫類が集中して確認されている。
魚類はホトケドジョウやニホンウナギが確認されている。
昆虫以外ではマジミの生息地にもなっている。水辺の植生ではタコノアシが確認されている。
池には、外来種のコイ、アメリカザリガニ、ミシシippアカミミガメ、ウシガエルが確認されている。外来植物はオオカワヂシャが確認されている。
カルガモやカワセミ等水鳥も多く確認されている。
ヘドロが堆積することで水位が浅くなり、高温化、貧酸素化するだけでなく、ヨシが拡大することで池としての環境は失われつつある。
ヤマアカガエル等は産卵するが、成長前に死滅しており、ヘドロの堆積による酸欠等が懸念される。
池で繁殖することが期待されるバン、カイツブリ、オシドリ等が冬しか利用しておらず、繁殖に堪えるポテンシャルではなくなっていると思われる。

利用・管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・池や川に立ち入らないように柵を設置している。 ・池では過去に外来種駆除を実施。 ・2020年冬に水生昆虫調査を実施した。
保全の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・水鳥が観察による悪影響を受けないよう、渡りの時期（3月～4月と9月～11月）、繁殖期（4月～8月）、越冬期（11月～3月）にハイド（鳥を観察する場所）を設置する。 ・水質の改善には、曝気、水の循環、好気性菌の投入などの方法もあるが、この池ではヘドロの除去が最も効果的であり、ヨシの無秩序な拡大も抑制できる。 ・バン、カイツブリ、オシドリ等が繁殖利用できる環境をめざす。 ・ニホンウナギ、マシジミなど両側回遊性の生物が生息できるよう田越川～久木川からの生態的な連続性を維持する。
管理の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨシ刈りを定期的に行う。幅7m以上あるヨシ群落は池側の前線を幅2m地際から刈り戻す。ただし、遮蔽性がなくなるため、陸側から池側に貫くように刈ってはいけない。そのように刈る場合は、ハイドまたはブラインドを常設する。 ・池上流側に接する竹林は池の陸化が進む懸念があるほか、水鳥が利用しにくくなっているため除去し、ヨシ群落の侵入を促す。 ・コイ、アメリカザリガニ、ウシガエルは特に積極的に駆除し、モリアオガエル、アカミミガメはそれに準じて駆除する。駆除はイベント的な活用も検討する。 ・汚泥吸引車等でヘドロの除去を行い、除去したヘドロは園内の谷戸にプールする。移動すべきヘドロは2020年現在150m³である。 ・池の上流側の川は、ホトケドジョウ、オオミズスマシの生息地であり、サンクチュアリの的に保全する。
その他	